

二四一五番

娘をとめ子らを 袖そで布留山ふるやまの 瑞垣みづかきの 久ひさしき時ときゆ 思おも

二四一六番

ちはやぶる 神かみの持もたせる 命いのちをば 誰たがため
にかも 長ながく欲ほりせむ

二四一七番

石上いそのかみ 布留ふるの神杉かむすぎ 神かむさぶる 恋こひをも我あれは 更さら
にするかも

二四一八番

いかならむ 名なに負おふ神かみに 手たむけ向むせば 我あが思おもふ
妹いもを 夢いめにだに見みむ